

4 年 2 組 社会科学学習指導案

授業者 辻 崇太郎

授業① 4 年 2 組教室

1 単元名 自然災害からくらしを守る

2 単元のねらい

- ・地域の関係機関や人々は、自然災害に対し、様々な協力をして対処してきたことや、今後想定される災害に対し、様々な備えをしていることを理解することができる。

【知識及び技能】

- ・過去に発生した地域の災害、関係機関の協力などに着目して、災害から人々を守る活動を捉え、その働きを考え、表現することができる。 【思考力、判断力、表現力等】

- ・自然災害から人々を守る活動について、予想や学習計画を立て、学習をふり返ったり見直したりして、主体的に学習問題を追及し、解決しようとする。

- ・社会的事象について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚を養おうとしている。【学びに向かう力、人間性等】

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 過去に発生した地域の自然災害、関係機関の協力などについて、聞き取り調査をしたり地図や年表など資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、災害から人々を守る活動を理解している。	① 過去に発生した地域の災害、関係機関の協力などに着目して、問いを見出だし、災害から人々を守る活動について考え表現している。	① 自然災害から人々を守る活動について、予想や学習計画を立て、学習をふり返ったり見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。
② 調べたことを図表や文などにまとめ、地域の関係機関や人々は、自然災害に対し、様々な協力をして対処してきたことや、今後想定される災害に対し、様々な備えをしていることを理解している。	② 自然災害が発生した際の被害状況と災害から人々を守る活動を関連付けて、その働きを考えたり、地域で起こり得る災害を想定し、自分たちにできることなどを考えたり選択・判断したりして表現している。	② 学習したことを基に地域で起こり得る災害を想定し、日ごろから必要な備えをするなど、自分たちにできることを考えようとしている。

4 本単元で重点的に育成を図る資質・能力

情報を収集・整理・分析する力	① 目的に合った情報を集めている。 ② 適切な情報で情報を集めている。 ③ 考えるための技法（比較する・分類する・関連付ける）を適切に選択している。 ④ 集めた情報の共通点・相違点を見つけることができる。
伝える力	① 相手や目的に合わせて、表現の工夫（図・表・グラフ・式・写真・動画など）をしている。

	② 考えの理由や根拠を説明している。 ③ 相手や自分の考えが伝わったか確認している。 ④ 相手や場面に合わせて言葉を選ぶことができる。
--	--

5 指導にあたって

(1) 教材観

4年生の社会科では、住みよい暮らしをするために努力した人や、様々な困難を経てみんなの生活を豊かにするための仕組みを作ってきた人がいたということを学ぶ。

本小単元では、自然災害から人々を守るために関係機関が協力しながら対処し、今後想定される災害に対し、様々な備えをしていることを理解することがねらいである。また、この学習を通して、防災に対する意識を高め、日頃から災害に対する備えを考える。

本単元では、自然災害の中でも水害について扱う。その理由として、近年の気候変動の影響により、水害のリスクが高まっていることが挙げられる。今年の8月には、金沢市で避難指示が出る大雨が2回あり、実際に川が氾濫している。全国的に見ても、線状降水帯の発生により、短時間で大量の雨に見舞われることが多くなっている。

過去には、2008年に浅野川水害があった。金沢市の山間部での豪雨をきっかけに、上流でも下流で川が氾濫し、家屋への浸水被害が多くあった。その時、3時間で251mmの雨を観測したものの、中流下流域では、雨が降っておらず、大量の水と土砂が流れ、氾濫した。その時に、市や地域の自主防災会は避難所を開設して市民の安全を確保した。これにより、「自助」（個人や家庭での備え）だけでなく、「共助」（地域やコミュニティでの協力）、そして「公助」（政府や行政機関の支援）がいかに大切だったのかを学ぶことができる。また、今後想定される災害について県や市、地域がどのような備えを進めているかを学ぶこともできる。災害時の備蓄倉庫の準備や、過去の災害データを基にした情報収集・発信など、地域社会の継続的な準備が重要であることを理解することもできる。

(2) 児童観

大雨の時には、川や用水の水位が上がり危険になることを知っており、水が氾濫した状況を見たという児童もいる。しかし、8月にあった大雨によって避難指示が出ていたが、避難することはなく自宅にいたという児童も多くいる。このような経験から、大雨による水害は、報道等で取り上げられ、危険性は知っているはずだが、自分の命を脅かすかもしれないという危機感をあまり感じていないと考えられる。

情報を収集・整理・分析する力については、「古くから残るもの」の学習で課題解決に必要な情報を見つけ出すことはできた。しかし、情報を整理し、関連付け、そこから考えられることを分析する力はまだ育っておらず、なぜそうなっているのかという根拠を関連付けて考えられる児童は少ない。その原因として、一部の児童だけが考えを出し、どのように情報が結びついているのかを考えられていないと思われる。

伝える力の育成については、社会科や国語科で根拠を明らかにして説明する経験はしてきている。例えば、根拠となる資料や言葉、文に線を引いたり印をつけたりしている。しかし、児童の中には、考えと根拠が結びついていなかったり、根拠が不十分で解釈が飛躍してしまったりする場合がある。

(3) 指導観

単元を通して、児童が災害に対して安心できるかということを、「安心円盤」を使い、自分事として考えさせる。また、クラス全体でも学習を重ねるごとに、安心できたかということの高まりを感じ、災害に対しての「対処」と「備え」があることに気付かせていく。

情報を収集・整理・分析する力については、視点に沿って集めた情報から、情報と情報を関連付けたり、集めた情報から共通点を見つけたりして、考えを深めていけるようにする。そのために、板書で情報を整理したり、学習履歴を活用したりできるようにする。また、見つけた情報をペアやグループで話し合うことで、自分では見つけられなかった情報に気づき、情報を分析できるようにする。読み取った複数の情報を関連付けることで、事象の根拠を論理的に説明できるようにする。

伝える力については、「〇〇を見てください。」のような根拠を明確にした説明の仕方をクラス全体で共有する。そうすることで、数ある情報の中から自分の考えの根拠となる情報をどこから見つけたのかが明確になる。また、ペアトークを取り入れることで自分の考えが友達に正しく伝わったかや、お互いが理解しているかを確かめていきたい。考えを伝えることを積極的に行うことで、もっと自分の考えを広めたいと思う児童を増やしていきたい。

6 単元計画（総時数 10 時間）

次	時	学習活動	★9つの資質能力の育成に関わる手立て	評価
一	1	＜県内では、どんな自然災害が起きているかな＞ 県内では、地震や大雪、台風、大雨など様々な自然災害が起きている。金沢市では、平成 30 年に大雪が、平成 20 年に浅野川水害が起きている。最近では、令和 6 年能登半島地震があった。	★過去 50 年間の災害年表を見て、近年の災害は何が多くなっているのかを読み取らせる。（情④）	知①
	2	＜浅野川水害はどんな災害だったかな＞ 浅野川水害は、平成 20 年に起き、家屋の倒壊や浸水など多くの被害が出た。たくさんのものも流された。 学習問題：大雨による水害からくらしを守るために、だれがどんなことをしているかな		思①
	3	＜どんな学習計画にしようかな＞ 市や地域の人、学校を調べたら良さそうだ。まずは、市から調べたい。		態①
二	1	＜県や市では、どんなことをしているかな＞ 金沢市では、水害に備えて、ホームページや防災無線等で知らせている。また、避難所を設営したり、災害対策本部を作り、自衛隊や警察とも連携した。これらを公助という。	★資料から読み取ったことを、聞き手に「〇〇を見てください。」などといった皇居を明確にした話し方で説明させる。（伝②）	知①

	2	<学校では、どんなことをしているのかな> 避難訓練をしたり、非常食や水を備えたりしている。学校の周りには、避難場所の看板がある。	★資料から読み取ったことを、聞き手に「〇〇を見てください。」などといった皇居を明確にした話し方で説明させる。(伝②)	知①
	3	<家庭では、どんなことをしているのかな> 家庭では、避難用の持ち出し袋を準備したり、金沢ぼうさいドットコムに登録したりしている。これらを自助という。		知①
	4	<地域では、どんなことをしているのかな> 地域では、避難行動計画を立てたり、防災訓練を行ったりしている。自分たちの地域を自分たちで守っている。これらを共助という。		知①
	5	<たくさんの取組をして備えているはずなのに、打田さんの安心円盤が低いのはどうしてかな> 本時 打田さんの安心円盤が低いのは、異常気象が増え、それに伴った災害も起こるからである。自助の面だけでなく、地域とのつながり（共助）をもっと大切にして、命を守っていく必要がある。	★根拠となる情報を集めるために、GTのインタビュー記事や前時までの学びに注目させる。(情①)	思②
	1	<自然災害からくらしや命を守るために、だれがどんなことをしていたかな> 自然災害からくらしを守るために、県や市が中心となって、国などと協力しながら対処してきた。また、大雨に備えて、県や市、地域や家庭が協力して様々な取組をしていた。	★これまでの学習で学んだことから、対処と備えという視点で情報を分析させる。(情④) ★資料から読み取ったことを、聞き手に「〇〇を見てください」などといった根拠を明確にした話し方で説明させる。(伝②)	知②
三	2	<災害が起こったら、どんな行動をとるかな> まず、自分の安全を確保し、正しい情報を入手する。次に、避難したり、近所の人に声をかけたりする。日頃からの備えが大切だ。		思② 態②

7 本時の学習 第二次中5時

(1) 本時のねらい

大雨から人々を守るために、地域で防災に取り組むことの意義に気づき、取組の大切さについて考えることができる。

【思考力、判断力、表現力等】

(2) 学習の展開

時	主な学習活動と児童の思考の流れ ○教師の発問 ・予想される児童の思考	・指導 ◎評価 ★9つの資質能力の育成に関わる手立て
5	1. 本時の課題をつかむ ○大雨に備えて地域ではどんなことをしていたかな？ ・防災訓練をしていた。 ・避難計画を立てていた。 ○打田さんの安心円盤はどうなっているかな？ ・打田さんは、どうして安心円盤が低いのかな。 <たくさんの取組をして備えているはずなのに、 打田さんの安心円盤が低いのはどうしてかな>	・打田さんと自分の安心円盤を比べることで、本時の課題が児童から見つけ出せるようにする。
20	2. 資料から予想し、全体で交流する ○打田さんの安心円盤はどうして低いのかな？ ・今まで経験したことのない異常気象だから。 ・降った後に、土砂災害が起きるかもしれないから。 ・避難指示があっても、避難しない人がいるから。 ○心配することが多いと分かったね。GTに確かめよう。	★根拠となる情報を集めるために、GTのインタビュー記事や前時までの学びに注目させる。(情①) ・インタビュー記事や写真資料を通して、根拠となる情報を集める。
10	3. GTの話聞き、考えを深める ・雨が降っていなかったから、川が氾濫しないと思っていたと聞いて、驚いた。予想外のことが起きることがある。 ・取組に参加しない人がたくさんいる。 ○どうすればもっと安心できるのかな？ ・地域の行事に参加して、たくさんの人を知ること、いざというときに助け合えるようにする。 ・自分の命を守る準備をしておく。	・見つけた情報を整理して板書に残すことで、考えを分析しやすくする。
5	4. 学習のまとめをする 打田さんの安心円盤が低いのは、異常気象が増え、それに伴った災害も起こるからである。自助の面だけでなく、地域とのつながり（共助）をもっと大切にして、命を守っていく必要がある。	◎大雨から人々を守るために、地域での取組が、くらしを守るために大切であると考えている。 【思考・判断・表現】 （発言・ノート）
5	5. 学習をふり返る ・前の情報とつなげて考えると、情報を収集・整理・分析する力が付いた。 ・共通していることを見つけると、分析できた。	